

## 2006年度 事業報告

### 1、事業実施の報告

---

特定非営利活動法人として2年目となった2006年度は、任意団体時代から数えて5年目となる。これまでより広く明るいオフィスに移転し、メディアカフェの機能がますます充実。新規の事業「トーチプロジェクト」の完成試写会が、多数の新聞や雑誌、ラジオで紹介され、大きな反響を呼んだ(4月)。JICAのアフリカ地域テレビ番組制作研修を受託し、研修生と委託者からの好評を得た(8月)。定期的な配信番組「ContAct」をスタートし、試行錯誤を重ねて、毎週放送開始に向けて取り組んだ(4月より準備、9月放送開始)。

継続事業である「映像制作ワークショップ」や「PlanetEyes」などの作品は、完成度が年々高まっているとして注目された。春のワークショップ作品「寿司屋のエディさん」は阿倍野ヒューマンドキュメンタリー映画祭で優秀賞を受賞。2005年秋期ワークショップを修了した新井ちひろさんの作品「そして、どう生きる」は、東京ビデオフェスティバルで優秀賞、調布ショートフィルムフェスティバルで入賞したほか、様々なシンポジウムや講演会で、市民が発信する映像作品として高く評価された。

これらの注目を浴びた作品をはじめ、PlanetEyesの作品が衛星放送局の朝日ニュースターで放送された(6月に契約)。ラジオ放送への参加を求められたことで、神戸のコミュニティ放送局「FMわいわい」の番組「恋するNPO」の中でコーナー「東京ラブレター」を担当した。会員の岩本太郎さん、橋爪明日香さん、金山智子さんのナビゲートで、東京の市民活動を紹介する番組を毎月第4週金曜21:30から22:00に放送。(7月から2007年3月まで)。

このほか、財政の基盤となっている社会貢献メディア支援事業では、これまでのパッケージ型動画だけでなく、ライブ配信のサポートに関心が高まった。2006年度は、ODA改革ネットワーク・イラクホープネット・全国女性シェルターネットなど、国内外で精力的に活動を広げているNGOが団体会員となり、その取り組みを配信した。NPO法人コトバナアトリエが企画したインターネット・ラジオ「オール・ニート・ニッポン」のライブ放送を支援し、各メディアの注目と多くのアクセスを得た(11月)。

#### (1) 会員数 (2006年12月末日現在)

正会員：37人 (増2・減2)

賛助会員：個人72人(増13・減8) 団体12団体(増6)

#### (2) 従業員の状況 (2006年12月末日)

フルタイムスタッフ3名(前年比増減 0名)

#### (3) 活動の拠点

東京事務所・京都事務所

## 2、事業実施に関する事項

### —インターネット放送に係る事業—

#### (1)市民の視点や人権・環境を考慮にいたった番組の制作

##### **Planet-Eyes** . . . . 継続

###### 【事業内容】

2005年度に初公募した「トーチプロジェクト」の企画のうち、4作品が完成。3月31日と4月1日の2日間にわたって完成試写会を行い、100人以上が来場した。また2006年度の公募を実施。優れた3企画を選び、2005年度公募企画の残り4企画とともに、現在番組の制作が行われている。

4月 トーチプロジェクト4作品

5月「この街で、ふと足をとめて」制作：2005年秋季ワークショップ修了生

6月「あんにょんサヨナラ監督インタビュー」制作：保田則子

7月「すしを喰ったばかりに」制作：2005年秋季ワークショップ修了生

8月「ジャワ・レポート」制作：橋爪明日香

8月「Salud!ハバナ」制作：井坂泰成

9月「そして、どう生きる？」制作：新井ちひろ

【実施期間】2006年1月～12月

##### **Torch Project** . . . . 継続

###### 【事業内容】

4月に完成上映会を実施、直後より反響を呼んだ。下記のとおり第2回の公募も実施、現在、制作が続いている。

【実施期間】企画公募 2006年4月～5月

企画選定 2006年7月

制作支援 2006年9月～2007年10月予定

###### 【受賞・制作企画】

現代のアイヌ民族・Ver.1	NPO 法人さっぽろ自由学校
(企画概要)アイヌ・アート・プロジェクトの活動を通して、現代に生きるアイヌ民族の現状を紹介する。	
だって私も女の子なんだモン♡	熊谷奈緒子
(企画概要)女性障害者も、身に着ける下着やオムツなどを気分よく選べたり、工夫したいものである。オシャレなオムツの必要性を訴える	
耐震補強があなたを守る	清水暁
(企画概要)阪神淡路大震災では、亡くなった人の8割が家屋の倒壊によるものだった。進まない家の耐震化と新たな取り組みをレポートする。	

## **ContAct の定期配信**・・・新規

### **【事業内容】**

初の定時配信番組は名称を「ContAct」とし、2006年9月より2週間に1回の頻度でパイロット版を制作・放送している。毎回さまざまな演出スタイル、制作方法をテストした。2007年4月からはウィークリー配信を目指す。

トヨタ財団、国際コミュニケーション基金からの助成事業「Connect & Communication the planet」を4月から実施したが、その成果はウェブサイト、および定時番組 ContAct を通じてアップロードした。同事業は2007年3月に終了するものだが、部分的に継続し、5月末までに完了する。

## **(2)人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介**

## **Preview & Review**・・・継続

### **【事業内容】**

ボランティアの担当者を中心に、配給会社・劇場などとのネットワークを強化して、優れたドキュメンタリー作品を紹介した。

### **【実施期間】**

2006年4月から8月

### **【実績】**

2月 ホテルルワンダ/ 2月 スティービー/3月 ナミイと唄えば/6月 蟻の兵隊/8月 Marines Go Home

## **WEBサイトの翻訳**・・・継続

### **【事業内容】**

ドイツのオープンチャンネルやマレーシアの ASIA247.TV、米国のインディペンデントメディアなどと個別に交渉を開始。徐々に翻訳作業を進めているが、完全な素材交換フローは完成しなかった。

## **—市民の情報発信(パブリック・アクセス)に係る事業—**

## **(3)子ども・市民のための映像制作教育**

## **映像ワークショップ**・・・継続

### **【事業内容】**

冬、春、夏と年3回の社会人向けワークショップを実施。特に夏季はワークショップ卒業生の協力を得て、八ヶ岳で実施。合宿方式で密度の濃いワークショップを開催することが出来た。

### **【実施期間・実績】**

2006年冬ワークショップ 1月～3月 参加者：6人

2006年春ワークショップ 4月～7月 参加者：7人

2006年夏ワークショップ 8月 参加者：10人

2006年秋ワークショップ 中止（新規事業「ContAct」の準備にあたるため）

## **JICAアフリカ放送局研修**・・・新規

### 【事業内容】

JICA が 2006 年度から新規事業として開始するアフリカ地域別研修のプログラム開発に参加。アフリカ 2 カ国（ケニア・ウガンダ）の研修生の OJT をサポートした。完成番組は「TOKYOMX」で放送され委託者の JICA からプログラム実施に対する高い評価を得た。

### 【実施期間】

8月27日～9月6日

### 【体制】

トレーナー：井坂泰成（元 NHK ディレクター）・海南友子（ドキュメンタリー監督）  
プログラムオフィサー：白石 実施：東京メトロポリタンテレビジョン（株）

## **講師派遣・シンポジウムへの参加**・・・継続

### 【事業内容】

映像ワークショップやノンリニア編集などの講師を必要としている団体、地方自治体などに講師の派遣を行った。また、メディア関連の研究会・シンポジウムなどに講師・パネリストとして参加した。下線は OurPlanet-TV 関係。

### 【実績】

- 1月20日～22日 「ASIA NEW MEDIA FORUM」(マレーシア)  
シンポジウム(各国インディペンデントメディア代表50人)
- 1月23日 「メディア・イノベーションのお話です」(新宿 Niked Loft)  
ライブトーク：泉あい(ブロガー)・竹内謙(JANJAN)・白石 草
- 1月28日 「メルプロジェクトの相貌」(東京大学)  
報告者：小川明子(愛知淑徳大学)・伊藤昌亮(東京大学大学院学際情報学府)  
討論者：五十嵐太郎(東北大学)・白石 草・モデレーター：長谷川一(東京大学)
- 2月2日 「アフリカのメディア事情」(京都龍谷大学)  
龍谷大学アフリカ研究所・非営利放送研究会合同研究会  
発表者：松浦哲雄(ラジオカフェ)・白石 草
- 2月14日 『ハンセン病隔離政策』ビデオアクト上映プロジェクト（飯田橋）  
『あなたに会う日のために ～長島・愛生園での半世紀～』天木リウ作  
『ソロクト・楽生院 ～日本が残したハンセン病隔離政策～』土屋トカチ作
- 3月23日・24日 優れたドキュメンタリー映画を観る会 VOL.16(下高井戸シネマ)  
『ぼくらの学校なくなるの?』上映 近藤 剛
- 6月9日 同酔会勉強会（神保町）スピーカー：白石 草
- 6月3日～9月3日 サマーフィーラム 2006「たどる・ねる・きる」(那須・もうひとつの美術館)  
『わがままな記憶をかたちにしてさかのぼる』上映 河原由香里作
- 8月24日 TVFカフェ(新橋ビクターホール)  
『ぼくらの学校なくなるの?』上映&トーク 近藤 剛
- 9月9日 ほんねトーク：マスメディア vs 市民メディア(横浜市民メディアサミット 2006)  
パネラー：美浦克教(共同通信記者)・白石 草・鈴木賀津彦(東京新聞支局長)  
隅井孝雄(JCJ=日本ジャーナリスト会議)・座長：丸山重威(関東学院大学教授)

- 9月16日 北京 JAC「メディアの内と外をつなぐ」(岡山)  
白石 草・遠田恵子(アナウンサー)  
北出真紀恵(東海学園大学)・谷岡理香(東海大学)
- 9月17日 空想の森映画祭(北海道・新得)  
『みんな空でつながっている』上映&トーク 橋爪明日香
- 10月8日 平和のための戦争展(北九州)  
『みんな空でつながっている』上映&トーク 橋爪明日香
- 10月10日 杉並区公開講座「映像制作講座」(東京女子大学)ほか計4日  
講師:白石 草
- 10月28日 北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット ～市民の情報発信支援～  
講師:小林りか
- 11月4日 ムービング・イメージと社会～映像社会学の可能性～(京都)  
「触発する映像:市民メディアとパブリックアクセス」  
パク・チュウン(メディアクト政策室)・ナ・デウキョン(ソウル大学大学院)  
下之坊修子(映像発信てれれ代表)・新井ちひろ  
コーディネーター:松浦さと子(龍谷大学)
- 11月11日 マスコミ学会 ～「市民ジャーナリズム」の課題と展望～(成蹊大学)  
司会:津田正夫(立命館大学)・問題提起者:呉 連鎬(OhmyNews)  
討論者:白石 草・神保哲生(ビデオニュース・ドットコム)
- 11月13日 国際コミュニケーション・フォーラム～「通信と放送が生み出す未来」  
「通信と放送の融合・連携:コンテンツにおける可能性」  
パネリスト:白石 草・高垣佳典(USEN 取締役コンテンツ事業本部長)  
土屋敏男(日本テレビ第2日本テレビ事業本部 ED)・横沢彪(吉本興業前相談役)  
コーディネーター:菅谷 実(慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所教授)
- 11月18日 ひとりからはじめるNPOマネジメントとネットワークづくり(大田区)  
講師:池田佳代
- 11月18日 九州放送映像祭(福岡)  
音好宏(上智大新聞学科助教授)・白石 草・天草テレビ・マロンテレビ
- 11月24日 市民セクター全国会議 2006(日本NPO センター)  
市民セクターがメディアを持つ時—市民メディアの現状と展望—  
パネリスト:金山智子(慶應義塾大学助教授)・中山マサオ(世田谷テレビ主宰)  
田中康文(オーマイニュース・インターナショナル本部長)・池田佳代  
コーディネーター:会田和弘(イーパーツ常務理事)
- 11月25日 十文字学園公開講座「オールタナティブメディア—市民テレビの活動とは」  
講師:小林りか
- 12月15日 「地域づくりアドバイザーの育成」支援(東久留米市)  
講師:池田佳代

#### (4)市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり

##### **メディアカフェ**・・・新規

###### 【事業内容】

4月にオフィスを引越し、メディアカフェのスペースがやや広がった。ビクター株式会社・株式会社デジタルスタジオなどにより、機材の貸与を受けるなど以前に増して機材が充実してきた。

###### 【実績】

利用者・・・12ヶ月間でのべ1000人利用

###### 【機材環境】

カメラ4台・ノンリニア編集機3台・プロジェクター1台 ほか

##### **NPOのための広報セミナー**・・・継続

###### 【事業内容】

NPOとの連携を深め、OurPlanet-TVのリソースを社会に提供するために、6月よりNPOのための広報セミナーを開始。毎回、定員を上回る申し込みが続き、計3回でのべ45人が受講した。ネットワーキングに良いと好評を博している。

###### 【実施期間】

2006年6月から8月

###### 【実績】

5月：マスコミ掲載術（講師：OurPlanet-TV 白石）

6月：WEB戦略（講師：グラムデザイン赤池円）

7月：インターネット活用法（講師：OurPlanet-TV 白石）

#### (5)社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援

##### **ストーリーミング支援**……新規

###### 【事業内容】

NPO/NGO からのニーズが高いライブ配信のサポートを積極的に行った。また、新番組「ContAct」に絡め、東京・名古屋・神戸にてエンコードセミナーも実施した。

###### 【実施期間】2月～11月

###### 【実績】

2月 共謀罪イベント・ライブ配信サポート

4月 水俣50周年記念講演会(NPO 法人水俣フォーラム )ライブ配信(中止)

5月 イラクホープネット・ライブ配信

ODA改革ネットワーク・ライブ配信

11月 「オール・ニート・ニッポン」(NPO 法人コトバナアトリエ)ラジオライブ配信

全国女性シェルターネットシンポジウム・ライブ配信サポート

## 映像の委託制作・・・継続

### 【事業内容】

マイクロソフトからの依頼が続いたこともあり、NGO など市民活動からの事業委託による収入は少なかった。しかし、次頁月別活動一覧にあるように、共謀罪イベント、イラクホープネット、ODA 改革ネットワーク、水俣フォーラム、市民メディアサミットのほか、実践しなかったものも含め市民活動・NPO からのライブ配信依頼がつづいたことで、市民による情報発信とライブ配信の需要を実感した。これらの需要にタイムリーに応えるスタッフ体制が不足していることも明確となった。

NPO デーやアクセシビリティなどの受託事業を通じて、他の非営利活動団体との新たなネットワークづくりにつながった。マイクロソフト関連では、6月よりWEBで展開しているレギュラーコンテンツ「夢工房」を月1回のペースで制作。世界の学生がIT技術を競うイマジンカップの取材のため8月にはインド出張も行った。

なお、全国自立生活センター協議会(JIL)からの委託制作は2006年5月からスタートしたが年度内に終了しなかったため、次年度中に完成予定である。

### 【実績】 ※コンテンツ納品ベース・・・()内は演出・編集の担当者

- 1月 NPO・ETM 研究所 ストリーミング支援 (白石)
- 2月 マイクロソフト アクセシビリティ (白石)
- 2月 マイクロソフト ICT スキルアッププログラム (白石)
- 3月 マイクロソフト 社会貢献プログラム紹介 VTR (白石)
- 4月 マイクロソフト NPO デー ビデオ (白石)
- 4月 マイクロソフト CSR 紹介ビデオ (白石)
- 4月 マイクロソフト 学生のシアトル訪問ビデオ (松山真也)
- 5月 マイクロソフト イマジンカップ記録ビデオ (井坂泰成)
- 6月 マイクロソフト ベンチャー企業支援コンテンツ (井坂泰成)
- 6月 マイクロソフト 夢工房1 札幌地域支援 (白石)
- 8月 マイクロソフト 夢工房2 イマジンカップ (白石)
- 9月 マイクロソフト 夢工房3 携帯開発者 (松山真也)
- 10月 マイクロソフト 夢工房4 カーナビ開発者 (松山真也)
- 10月 マイクロソフト 教育支援 OP (阿地方)
- 11月 NPO・全国女性シェルターネット ライブ配信支援 (白石)
- 11月 NPO・コトバノアトリエ ラジオライブ配信支援 (白石)
- 11月 マイクロソフト 夢工房5 式根島プロジェクト (松山真也)
- 11月 マイクロソフト 教育支援シンポ記録V (阿地方)
- 12月 マイクロソフト 夢工房3 学生科学賞 (松山真也)

## 月別活動一覧

- 1月 2005年冬ワークショップ開始
- 2月 共謀罪イベント・ライブ配信サポート／第1回通常総会
- 3月 トーチプロジェクト完成試写会／NHK教育テレビ「情報B」の番組で紹介
- 4月 トーチプロジェクト公募開始／事務所移転／2006春ワークショップ開始／水俣50周年記念講演会・ライブ配信サポート(中止)
- 5月 イラクホープネット・ライブ配信サポート／TBS「ニュース23」でトーチプロジェクトの作品が放送／ODA改革ネットワーク・ライブ配信サポート
- 6月 インドネシア・ジャワ島中部地震現地ライブレポート放送と関連支援金募集・配達／広報セミナー①
- 7月 広報セミナー②／「ContAct」企画合宿／エンコードセミナー実施(東京・2回)／FMわいわい・ラジオ番組スタート
- 8月 広報セミナー③／インド出張／夏季集中ワークショップ実施／JICAアフリカ地域別研修
- 9月 「ContAct」開始／市民メディアサミット2006参加
- 10月 5周年パーティー
- 11月 エンコードセミナー実施(名古屋)
- 12月 エンコードセミナー実施(神戸)

## 組織運営概要

組織の基盤整備に向けた主な業務を報告する。

### (1) 会員募集と管理

日常業務として会員募集に労力を確保できないため、11月に会員募集キャンペーンを開催し、集中して取り組んだ。12月初旬に新規・継続の呼びかけも含めて締め切ることで、次年度の会員数を試算できた。

### (2) ボランティア・インターン受け入れ

大学生のインターン希望が8名あり、1ヶ月から3ヶ月ごとにプログラムを作成し、延べ12人を受け入れた。内容は、NPO-webdesk1、事務補助2、広報補助2、ウェブサイト更新3、番組「ContAct」の制作補助4。今年は自発的な受け入れ要請が続いたため、受け入れ困難な時期以外はできる限り受け入れた。

ボランティア希望者は約50名あり、相互のコミュニケーションツールとしてメーリングリストを活用した。必要なときMLに参加を呼びかけることで、求めに応じた人の参加につなげた。登録は40名を超えた。特に、保田則子さんは、昨年に引き続き継続して活動に参加していただき、映画紹介事業に大きく貢献した。

### (3) 会員との情報受発信

会員向けサービスとして、2つの媒体を作成した。事務局に来訪できなくても活動を知ることができるとして会員から好評を得、メール媒体を好む人、文字媒体を好む人それぞれの欲求に応えるかたちとなった。

①一斉同報メール「事務局だより」：事業報告と告知のほか、専従・ボランティア・インターンなどのスタッフ紹介を主な内容として、1-2ヶ月に1回、事務局が執筆・発行した。

②季刊紙「Offline⇔Online」：事業報告と告知、メディア関係の読み物記事を主な内容として、年4回発行。インターンが広報プログラムを実践する場のひとつとして制作に関わった。

### (4) 一般視聴者への情報サービス

会員になっていない一般視聴者に向けて、ウェブサイトでの告知と、メールマガジン「News & Topics」による告知を行った。新番組のアップロードにあわせて発行したメールマガジンは、番組告知やニューメディアのイベント、インディペンデント映画の上映日程などを内容とし、視聴者からの反響も寄せられた。



## 2006 年度 会計報告

## 収支計算書

(会計期間 2006年1月1日～2006年12月31日)

	科目	借方金額	貸方金額	繰越
収入の部	事業 収入		28,815,399	
	番組制作情報提供収入		2,115,220	
	メディア教育支援収入		1,553,520	
	情報発信支援収入		3,969,989	
	社会貢献メディア支援収入		21,176,670	
	助成金収入	1,800,000	3,100,000	
	トヨタ財団助成金収入	1,800,000	2,400,000	600,000
	ICF助成金収入		700,000	
	会費収入		1,585,000	
	入会金収入		250,000	
	正会員会費収入		300,000	
	賛助会員(個人)会費収入		585,000	
	賛助会員(団体)会費収入		450,000	
	寄付金収入	66,656	257,177	
	一般寄付		83,927	
	番組制作		54,100	
	緊急行動	66,656	119,150	52,494
	受取利息収入		792	
	合 計	1,866,656	33,758,368	652,494
支出の部	番組制作情報提供支出	2,700,836	390,000	
	映像作品紹介支出	1,440		
	メディア教育支援支出	208,640		
	情報発信支援支出	1,142,381		
	社会貢献メディア支援支出	18,317,003		
	事業費 計	22,370,300	390,000	
	法定福利費	693,236		
	福利厚生費	5,788		
	通 信 費	223,729		
	荷造 運賃	139,681		
	水道光熱費	509,302		
	旅費交通費	328,440		
	接待交際費	11,075		
	会 議 費	33,946		
	事務用消耗品費	332,205		
	備品消耗品費	183,066		
	新聞図書費	65,445		
	印刷 経費	300,618		
	修 繕 費	138,600		
	地代 家賃	1,905,200		
	保 険 料	13,610		
	租税 公課	3,600		
	諸 会 費	33,312		
	支払手数料	94,099		
	雑 費	113,067		
	管理費 計	5,128,019		
	合 計	27,498,319		
	当期収支差額		4,783,393	

貸借対照表  
2006年12月31日現在

科 目	金 額 (単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	17,643,680		
その他流動資産	46,500		
流動資産合計		17,690,180	
2 固定資産			
固定資産合計		1,092,000	
資産合計			18,782,180
II 負債の部			
1 流動負債			
流動負債合計		201,896	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			201,896
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産	14,152,831	0	
当期正味財産増加額		4,629,349	
正味財産合計			18,580,284
負債及び正味財産合計			18,782,180

財産目録  
2006年12月31日現在

科 目	金 額 (単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
預金	16,513,104		
現金	372,284		
郵便振替	758,292	17,643,680	
その他流動資産	46,500		
流動資産合計		17,690,180	
2 固定資産			
保証金	1,092,000		
固定資産合計		1,092,000	
資産合計			18,782,180
II 負債の部			
1 流動負債			
流動負債合計		201,896	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			201,896
III 正味財産の部			
正味財産合計			18,580,284